

# ホツ!! テイータイム



ひと息

## ■在宅鍼灸治療の取り組み

「地域包括ケアシステム」として、重度な要介護状態になつても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしができるよう、医療・介護・予防・生活支援・住まいのサービスを受けられる地域で暮らし続けられるような医療・介護などが一度となつたシステムのことをいう。

## ■在宅鍼灸治療

とは、2025年に度な要介護状態になつても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしができる人生の最後まで続けることができることを目的とした医療・介護などが刺鍼時の痛みや内出血、②治療効果が感じられない、③鍼の本数が少ない、④電気治療(低周波治療)を使う。使わない、(5)鍼灸以外の問題(5)治療の目的などの説明不足などがある。(3)鍼灸治療費の取り扱いは、療養費のか、自費のどちらかで「介護保険」の取り扱いはない。(4)在宅で鍼灸治療を進めることを望む多い疾患(症状)は、①腰痛、②膝痛、③神経痛、④慢性的の疼痛などがある。(2)鍼灸治療に考へているなお地

域包括ケアシステムのことをいう。

## ■在宅鍼灸治療

は、「鍼灸治療希望者」とのコミュニケーション、(1)主訴の改善、(2)QOLを踏まえながら治療を行う、(3)状態(症状)の悪化や、クレームの発生を防ぐ(リスク)

月1~2回など、(2)治療方法については、鍼のみ(置鍼散)である。(7)鍼灸の治療頻度は(1)通1~3回

の治療では、(1)術後疼痛(2)関節の変形、(3)椎間板ヘルニアなどがあり、自費の治療では、(1)術後疼痛(2)関節の変形、(3)椎間板ヘルニアなどがある。鍼灸治療では、基礎疾患についての治療ではな

い。

話しかけ、態度、声の大きさや、体臭など

の匂い、(3)関節可動域訓練などを依頼さ

れることなどがあ

る。(7)鍼灸の治療頻度は(1)通1~3回

の治療では、(1)術後

疼痛(2)関節の変形、(3)椎間板ヘルニアなどがある。鍼灸治療では、基礎疾患についての治療ではな

い。

話しかけ、態度、声の大きさや、体臭など

の匂い、(3)関節可動域訓練などを依頼さ

れることなどがあ

る。(7)鍼灸の治療頻度は(1)通1~3回

の治療では、(1)術後

疼痛(2)関節の変形、(3)椎間板ヘルニアなどがある。鍼灸治療では、基礎疾患についての治療ではな

い。

後癒による痛み、(4)変形性関節炎、(5)椎間板ヘルニア、(6)脳膜マビ、(7)脊髄損傷などがあり、自費の治療では、(1)術後疼痛(2)関節の変形、(3)椎間板ヘルニアなどがある。鍼灸治療では、基礎疾患についての治療ではな

い。

は、(1)神経痛(例え

ば坐骨神経痛)、(2)リウマチ(指の関節

などが腫れて痛むも

のが腫れて痛むも

群(首から肩、腕に

かけてしびれ痛むも

の)、(4)五十肩(肩

の関節が痛く腕が挙

がらないもの)、(5)

は、治療に用いる鍼

は、治療に用いる鍼